

令和6年6月26日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）学校教育におけるAIの活用について

学校教育におけるAIの活用については、プラス面とマイナス面の両方が考えられるが、教育現場でどのようにAIを活用しようとしているのか、教育長に伺う。

（答）

生成AI等の情報技術が加速度的に進展し、技術革新やサービス開発が飛躍的に発展する中、未来の社会を生きる子供たちが、新たな情報技術を使いこなすための力を育てていくことが重要であると考えております。

一方、生成AIの活用におきましては、個人情報の流出や著作権侵害のリスクの外、批判的思考力や創造性のかん養、学習意欲等への影響など、様々な懸念も指摘されているところでございます。

こうした懸念を十分踏まえつつ、生成AIを有効に活用する観点から、県教育委員会では、昨年策定された文部科学省のガイドラインに基づき、生徒や教員が生成AIを利用する際の基本的な考え方や留意事項を整理し、全県立学校へ周知するとともに、市町教育委員会にも情報提供したところでございます。

実際の教育現場での活用におきましては、県立高等学校では、授業の場面において、生徒がプログラミング学習の中で自ら作成したプログラムを改善するための参考として用いたり、英作文の学習において英語表現を改善するために活用したりしております。

また、校務の場面では、学校だよりや報告書などの日常的に作成する文章の校正や、教員及び生徒対象のアンケート結果の分析などに活用しているところでございます。

さらに、新たな取組として、産学官連携による「ひろしまAI部」が発足したところであり、参加する生徒たちは、企業等から派遣された社員による指導を受けながら、AIの基礎を理解し、活用方法などを学ぶこととなります。

県教育委員会といたしましては、生成AIを含む情報技術を使いこなすための力を育てるため、引き続き、好事例を共有するとともに、関係機関と連携・協力しながら、学校の状況に応じた支援を行ってまいります。